

下原委員（草莽の会）

平成30年3月12日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）広島叡智学園における宗教面での課題と対応について

広島叡智学園では、高校生の3分の1は、海外からの留学生が占めるため、様々な宗教の学生が集まることが予想される。また、全寮制となるため、学校生活だけでなく、衣・食・住の全ての面で、各宗教におけるしきたりや生活習慣の違いなどにより、通常では想定されないようなトラブルが生じることが考えられるが、宗教面での課題をどのように認識しているのか、また、今後どのように対応していこうとしているのか、併せて教育長に伺う。

（答）

広島叡智学園では、重点的に育成する5つの資質・能力の中に掲げます、「異なる文化・価値観を持つ人々と協働する力」などを育むため、平成31年度に入学した生徒が高校1年生となる平成34年度には、多くの海外からの留学生を受入れることにしております。

世界中の国や地域から、多様な文化的背景を持つ生徒を受け入れるためには、それぞれの国の生活習慣の違いや、信仰する宗教の違いを踏まえた対応が必要となることが想定されます。

これらの課題につきましては、海外の大学や教育機関の運営に携わっておられる有識者からの助言でありますとか、海外から多くの留学生の受入れを行っている大学などの先進事例を参考にしながら準備を進めているところでございます。

今後も、海外からの留学生の円滑な受入れが行われるよう、万全の準備を進めてまいりたいと考えております。